

研究テーマ	生徒の主体的な活動を生かした表現活動の指導の工夫 ー第2学年「あかりをつくろう!」, 「学校で使えるサイン」の実践を通してー
-------	---

小美玉市立小川南中学校 教諭 南條 宏美

I 研究テーマについて

美術科はさまざまな制作活動の中に、目標の達成や課題解決に至るまでの試行錯誤の場や機会が豊かに存在している。また、美術科の活動には自分で発想し、そのための課題解決の仕方や諸準備・手順など、発想から思考・創意工夫・表現まですべての活動が含まれている。しかし、これまでの自身の授業から生徒たちの作品を振り返ると、表現の幅が狭く、類似した作品になってしまうことが多い。理由として、個人がもっている知識やイメージが十分ではないことや、作品をより良くする楽しさを十分感じられていないことが、積極的な活動につながらず、表現の幅を狭めているのではないかと考えた。

そこで、研究テーマに迫るために、「見ること」「伝え合うこと」を大切にした言語活動を充実させたいと考えた。その具体的な手段の1つとして、ICTの活用である。パワーポイントを使用してさまざまな作品を見せたり、実物投影機を使ってアイデアスケッチを見せながら考えを伝えたりすることで、一人一人の知識を広げられるようにする。2つ目は、生徒間の意見交流の場の設定である。友達と自分のアイデアを交流させることで、自分の考えを整理したり、違いに気付いたりして、自分自身の考えに深まりが生まれるようにする。

創造活動を主体的に展開できるようにするためには、まず、多くの発想が自分のなかにあることが必要である。さまざまな作品を見たり、友達と意見を交流したりすることで、さまざまな発想が生まれ、考えが深まるような場をどのように設定していくか、その指導の在り方について研究した。

II - I 研究の実際

1 題材名 あかりをつくろう!

2 題材の目標

- 目的や機能を表現することに関心をもち、造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり和紙の特性を生かしたりしようとしている。 (美術への関心・意欲・態度)
- 使用する者の気持ちや機能などを基に色彩の効果を生かして、造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。 (発想や構想の能力)
- 自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり制作の順序などを総合的に考え、見通しをもったりしながら創造的に表現することができる。 (創造的な技能)
- 作品の造形的なよさや美しさなどを感じ取り、味わうことができる。 (鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態

本クラス(30名)の生徒のほとんどは積極的に授業に取り組むことができる。男女間も仲が良く、活発に自分の考えを伝え合うことができる。より良い制作を行うために意見交換の場を設定すると、アドバイスを積極的にする生徒が多い。また、制作意図に合わせて、さまざまな表現を試みようとする生徒が多い。

(2) 題材観

本題材「あかりをつくろう!」は学習指導要領第2学年及び3学年 2内容A表現(2)の「デザインや工芸などに表現する活動」にあたる。目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの組み合わせを簡潔にしたり、総合化したりするなどして構成や装飾を考え、表現の構想を練り、形に表す題材である。

(3) 指導観

導入では手や和紙、ケント紙などを使って光源を隠し、どのように光を漏れさせるか考える場を設定することで想像力が広がるようにしたい。さまざまな形や素材を工夫しながら、組み合わせを追求し開発することができる発展的な題材であるため、光源を当てながら試行錯誤するなかで、形になっていく喜びを味わえるようにしたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> あかりの効果や和紙の透過性、ケント紙の遮光性に興味をもって取り組もうとする。 意欲的に、作品から良さや美しさを見つけようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用する場所や使用する者、あかりの用途を考えて表現の構想を練ることができる。 あかりの効果を理解し、表現意図に合わせて技法を選択して制作できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 光源を当てながら、光が通るか気を付けて紙を切り抜いたり紙を重ねたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> お互いの作品の良さを味わうことができる。

5 指導と評価の計画（9時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次	光の特性や和紙の透過性を確認する	<ul style="list-style-type: none"> あかりの効果や和紙の透過性、ケント紙の遮光性に興味をもって取り組んでいる。 関【観察・ワークシート】
第2次	デザイン考案・加工する	<ul style="list-style-type: none"> 使用する場所や使用する人、あかりの用途を考えて表現の構想を練ることができる。 発【ワークシート】
第3次	加工する <ul style="list-style-type: none"> ケント紙や和紙の加工 下書き 切り抜く 	<ul style="list-style-type: none"> あかりの効果を理解し、表現意図に合わせて技法を選択して制作できる。 発【作品、ワークシート】 光源を当てながら、光が通るか気を付けて切り抜いている。 創【観察、作品】
第4次	作品鑑賞する	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に、作品から良さや美しさを見つけようとしている。 関【観察、ワークシート】 お互いの作品の良さを味わうことができる。 鑑【自己評価シート・ワークシート】

6 指導の実際

(1) 授業の流れ

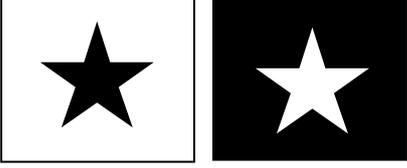
時間	教師の提案	生徒の反応
1	1 身の回りのあかりには、どのようなものがあるか考える。	<ul style="list-style-type: none"> 電灯・懐中電灯・イルミネーション・キャンドル 夜景・提灯 など
1	2 あかりには、どのような役割や効果があるか。	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着く・わくわくする・心が和む 手元が明るくなり、作業しやすくなる
1	3 あかりを灯して紙を透かし、どのように光を通すか確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 紙を近づけたり遠ざけたりすると光の強さが変わる。 和紙の重ね方で、光の通り方が変わる。



6	4 試作品をつくりながら、全体の構成を考え、本制作も進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・光を多く通すために大きく切り抜いた方が良い。 ・あかりの強度を高めるために、柱を残した方が良い。 
1	5 鑑賞会	<ul style="list-style-type: none"> ・見ていて和む。 ・落ち着く。

(2) 授業の展開

- ① 目 標 あかりの効果を理解し、使用する場所や使用する者、あかりの用途を考えて表現の構想を練ることができたか。
(発想や構想の能力)
- ② 準備・資料 ワークシート、ケント紙、和紙、雲龍紙、カッター、カッター板、のり、はさみ、クリアファイル
- ③ 展 開 ・配慮事項 ◎個に対する手だて ○評価

学習活動・内容	時間	援助・指導の配慮事項
1. 本時の学習内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">光の通り方を確認しながら、構想を練ろう。</div>	3分	・本時のねらいや活動をはっきりさせ、意欲的に取り組めるようにしたい。
2. 生徒それぞれが前時に考えたアイデアを伝え合う。 ・誰がどこで使うか (例 居間, 部屋, 玄関) ・どのような用途で使いたいのか ・表現方法 (例 切り絵, 貼り絵)	6分	・プロジェクターでさまざまなあかりを見せて、使用場所や使用目的のイメージをつかみやすいようにする。 ・考えを伝え合うことで、見通しをもつことやさまざまな表現を知る機会にし、表現の幅を広げたい。 ・参考になる考えを自分の作品に取り入れてもいいことを伝える。
3. 制作する際の注意点を確認する。 ・使用する場所や使用する者、用途と光を考えたデザインにする ・光がどの程度通るか確認をしながら制作する ・刃物の使用に十分注意する	5分	・切り抜きをする場合はカッターを使用するが、貼りつけるパーツの場合は、はさみや手で破ることも方法としてあることを伝える。 ・用途に合わせたデザインであれば、光の漏れ方が少なくても良いことを伝える。 ・制作の見通しをもった生徒は光の透過性を見るために、ケント紙を切り抜き、和紙を貼ったりするなどして確認しながら進めても良いことを確認する。
4. アイデアスケッチをする。 ・試作する ・ワークシートにアイデアスケッチする 	27分	・ケント紙を切る時は切る方向に紙を回すと、安全に作業しやすいことを伝える。 ◎アイデアが出ない生徒は、図形を用いたり構成美の要素を参考にしたりしてデザインを考えていくよう助言する。 ・カッターでの切り抜きが難しそうなのは、単純な形にしたり省略したりして進めるよう助言する。 ◎文字を入れたい生徒は、トレーシングペーパーで転写。
5. 後片付けをする。	5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○あかりの効果を理解し、使用する場所や使用する者、あかりの機能をj考えて表現の構想を練ることができたか。 (作品, ワークシート, 発想や構想の能力)</div>

6. 本時の振り返りをする。	4分	<ul style="list-style-type: none"> ・刃物はグループで数を確認し、集めさせる。 ・作品はクリアファイルに入れて保管する。 ・ワークシートを用いながら本時の学習を振り返るとともに、次時の内容を確認して次時への意欲づけをする。
----------------	----	---

II - II 研究の実際

1 題材名 学校で使えるサインを考えよう！

2 題材の目標

- マークのデザインに関心を持ち、主体的に創造的な工夫をして表そうとしている。
(美術への関心・意欲・態度)
- 伝える、使うなどの目的や機能を考え、形や色彩の効果を生かして分かりやすさを考え、表現の構想を練っている。
(発想や構想の能力)
- 着彩の順序を考えながら、創造的に表現している。
(創造的な技能)
- 伝えることと形や色彩などとの調和のとれた洗練された美しさを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。
(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態

本クラス(36名)の生徒のほとんどは積極的に授業に取り組むことができる。しかし、発想することが苦手な生徒は、友達の商品を見て似たような商品を1つ制作して終わることも少なくはない。商品をより良いものにしようと十分に構想を練る生徒は全体的に少ない。

(2) 題材観

本題材「学校で使えるサインを考えよう！」は学習指導要領第2学年及び3学年 2内容A 表現(2)の「デザインや工芸などに表現する活動」にあたる。目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄などの組み合わせを簡潔にしたり総合化したりして、表現の構想を練り形に表す題材である。今年度は、新校舎への移転があり、新校舎内の表示が少ない。教室表示や注意喚起など学校で使えるサインを考えさせることで、学校での過ごし方をもう一度振り返らせたり、校舎を大切に使おうという気持ちをもたせたりすることをねらいとしている。

(3) 指導観

導入では、グループでマークを分類させたり、ICTを活用したりして、マークがどのように作られているのか気付かせる。また、どのような役割を果たしているか考えさせる。その後、実際に校舎内を歩き、どのようなサインがあると過ごしやすくなるか考え、使用場所や使用目的を決定してから、デザインを考えていくようにした。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・マークのデザインに関心を持ち、主体的に創造的な工夫をして表そうとしている。 ・意欲的に、作品から良さや美しさを見つけようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える、使うなどの目的や機能を考え、形や色彩の効果を生かして分かりやすさを考え、表現の構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着彩の順序を考えながら、創造的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えることと形や色彩などとの調和のとれた洗練された美しさを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている

5 指導と評価の計画(8時間扱い)

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
----	---------	-------------

第1次	マークを分類する	・マークのデザインに興味をもち、意欲的に分類分けしている。 関【観察・ワークシート】
第2次	マークの特徴や役割を学習する	・マークの特徴や役割に気づき、使用する場所や目的をおさえて表現の構想を練ることができる。 発【ワークシート】
第3次	制作する ・アイデアスケッチ ・着彩	・伝える、使うなどの目的や機能を考え、形や色彩の効果を生かして分かりやすさを考え、表現の構想を練っている。発【作品、ワークシート】 ・着彩の順序を考えながら、創造的に表現している。創【観察、作品】
第4次	作品鑑賞する	・意欲的に作品から良さや美しさを見つけようとしている。 関【観察、ワークシート】 ・お互いの作品の良さを味わうことができる。 鑑【自己評価シート・ワークシート】

6 指導の実際

(1) 授業の流れ

時間	教師の提案	生徒の反応
1	1 マークは、どのように分類できるかグループごとに考え、まとめる。	・ローマ字、カタカナ、平仮名 ・文字と絵が組み合わせられている。
1	2 マークはどのように作られているか考える。 ・何のために使われているか理解する。	・具体的なかたちから ・文字から ・場所の表示や、注意を呼びかける。
2	3 学校探検を行い、デザインを考える。	・水道をきちんとしめよう。 ・保健室前は、休んでいる人がいるから、静かに歩こう。 ・実験中の私語はやめよう。 ・形が入り組んで複雑だから、もっと線を減らして簡潔に表そう。
3	4 色の効果を考え、ポスターカラーの使い方を復習しながら、均一に塗る。 	・注意を促すから、赤を使おう。 ・優しい印象にしたいから、白を混色し、明度を上げよう。 
1	5 鑑賞会	・直感的に何を伝えたいマークが分かる。

(2) 授業の展開

① 目 標 マークの特徴や役割に気づき、使用する場所や目的をおさえて表現の構想を練ることができる。
(発想や構想の能力)

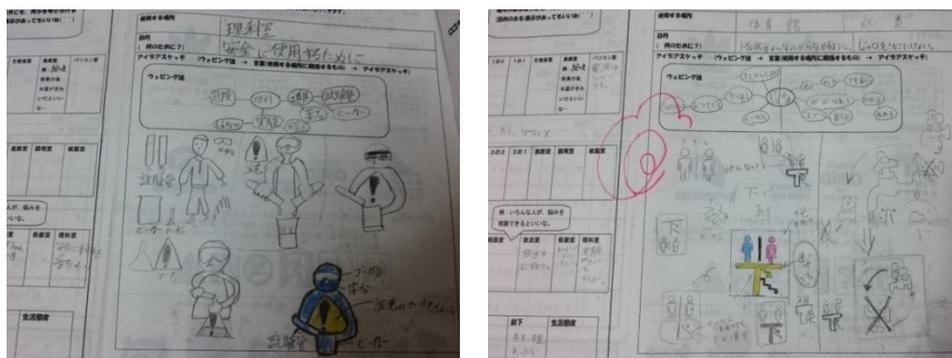
② 準備・資料 ワークシート、色鉛筆、カラーチャート

③ 展 開 ・配慮事項 ◎個に対する手だて ○評価

学習活動・内容	時間	援助・指導の配慮事項
1. 本時の学習内容を確認する。 使用する場所や目的を決めて、デザインを考えよう。	3分	・本時のねらいや活動をはっきりさせ、意欲的に取り組めるようにしたい。
2. アイデアスケッチの進め方を確認する。 ・使用する場所や目的を決めてからデザイン	5分	・ウェビング法で、テーマに関するものを言葉で書き出させる。 ◎発想が苦手な生徒には、友達と相談しながら書くよう助言す

<p>を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡略化する <p>3. のこぎりの例を出し、簡略化の仕方を全体で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギザギザを減らす。 ・1つ1つのギザギザを大きくする。 <p>4. アイデアスケッチをする。</p> <p>5. 実物投影機を使い、アイデアをよく練っている生徒を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインをどのように考えたか ・どのように工夫をしているか <p>6. 本時の振り返りをする。</p>	<p>5分</p> <p>27分</p> <p>7分</p> <p>3分</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体やグループで簡略化の仕方を考えることで、一人一人が課題に取り組む際、実践しやすくなるようにする。 ・資料集で単純化・省略・強調の内容を実物投影機で映し、簡略化の仕方を理解できるようにする。 <p>◎書き進められないでいる生徒には、まずは言葉で書いたもののなかで描きやすそうなものを絵にするよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡略化のために、単純な図形に置き換えて描き進めるよう助言する。 ・工夫を凝らしたアイデアを見せることで、他の生徒も1つの考えに留まらず、形や色に工夫ができるようにしたい。 ・発表者は、話す中で考えが整理され、よりよい制作につながるようにしたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○使用する場所や目的を決めて、デザインを考えることができたか。(作品、ワークシート、発想や構想の能力)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いながら本時の学習を振り返るとともに、次時の内容を確認して次時への意欲づけをする。
---	--	---

ワークシート



III 研究の成果と課題

1 成果

- ・実物投影機を使って、より良い作品にしようと構想を練っている友達のアイデアスケッチを見せ、さらに生徒による解説を入れることで、他の生徒の中でもより良くしようと構想を練る生徒が増えた。(アイデアスケッチと作品の完成形は一致しなくてはいけないという考えから脱却され、いろいろと試そうとする生徒が増えた。)
- ・グループで課題を解決したり、考えを伝え合ったりすることで、一人ではできなかった気づきや考えの深まりがあり、発想が広がった生徒が増えた。発想が広がったことで、主体的に活動できるようになった。

2 課題

- ・週1回という限られた授業のなか、1時間、または全体の計画のなかでどこにICTをつかった授業を取り入れるか。制作時間の確保が難しくなってくる。
- ・主体的に取り組むにあたり、発想を広げられるように知識を増やすことも必要である。そのために、座学の時間を確保し、短時間でできる授業を計画することが必要である。
- ・1年生のときから、発想を広げるための造形遊びの授業を位置づけ、主体的に探究する態度を育てていくことが大切である。年間計画を見直していきたい。